

多面的機能の増進を図る活動

1

和泊町広域協定

- 和泊町は、鹿児島市より南南西約540kmに浮かぶ面積約94km²、周囲約56kmの沖永良部島の東北部に位置し、人口は、今年度4月時点で6,216人、町の面積が約40km²である。
- 町内全21集落の活動組織で活動していたが、R3年度より全活動組織で構成する和泊町広域協定を立ち上げ、活動を行っている。
- 農業者の高齢化と減少に伴い、農地の借り手も減少していくことが予想されるため、遊休農地が発生しないよう行政と連携を図りながら、当地域の有する多面的機能の維持・発揮に努める必要がある。
- 各活動組織で農村文化の継承によるコミュニティの強化や景観形成活動を実施し、子ども会から長寿会が交流を図りながら活動を行っている。

【地区概要】

- ・取組面積：2038.2ha
(畑 2038.2ha)
- ・資源量：水路 101.6km, 農道 87.4km
ため池80箇所
- ・主な構成員：字, 農業者, 長寿会,
青壮年, 子ども会育成会
- ・交付金：約1億370万円(R4)
農地維持支払 4,076万円
資源向上支払 6,294万円
(長寿命化含)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や担い手不足に伴い、農道や水路の維持管理活動への参加者が減少し固定化している。
- 事務の担い手を確保するのが困難になりつつある。
- 単独組織では、予算等の問題で活動が縮小されている。
- ため池フェンスが塩害により腐食している箇所が多く、今後長寿命化活動等で更新・維持管理を行う必要がある。



施設や圃場の点検や異常気象後の見回りによる作業や補修等の活動を行っている。

【ため池の点検・診断】

取組内容

【和泊町広域協定設立】

- R2年度から、準備委員会を立ち上げ、R3年度に町内全活動組織で構成する和泊町広域協定を設立。



【農村文化継承によるコミュニティの強化や植栽等の景観形成活動】

- 子ども会と婦人会、長寿会等が連携し、農村文化の継承や農道敷を中心に季節の花の植栽や手入れを行っている。



取組の効果

○ 広域組織設立によるメリット

- ・集落間連携により、資機材、人材、技術力の融通ができつつある。
- ・共通単価を設定することができた。
- ・事務量の減少
- 農村文化継承によるコミュニティの強化や景観形成活動を通じて、農家以外にも**農村環境保全に対する意識強化**を図ることができつつある。



きっかけ

地域の共同活動で支えられてきた地域資源の適切な保全管理を推進し、地域の協働力の強化を図ることを目的に事業に取り組む。



農村文化継承によるコミュニティ強化

Step1 (~H23)

21集落が活動開始

- ・平成19年度8組織認定
 - ・平成20年度8組織認定
 - ・平成21年度4組織認定
 - ・平成23年度1組織認定
- 持続可能な地域資源の適切な保全管理を目的にそれぞれで活動組織を立ち上げ、活動を開始する。



子ども会も一緒に活動

Step2 (~H28)

小規模活動組織の課題

- 少子高齢化に伴い、人材の確保等、活動が難しくなりつつある。
- 事務の担い手を確保するのが困難になりつつある。
- 単独組織では、予算等の問題で活動が縮小されている。



広域準備委員会の様子

Step3 (~H29)

広域化検討会の実施

- 比較的に小規模組織の集まる校区において広域化に向けた検討会を実施。

結果→ 現時点では、各活動組織を維持し、他の地区の広域化の状況を見ながら今後検討していくと意見が一致したために、広域組織は未設立となった。

将来に向けて

- 今後は、広域化による連携を深めながら、リーダーとなる人材の育成、更に子ども会や育成会、婦人会も活発に活動できるような取り組みを増やし、それぞれの活動組織の参加協力人数を確保し、地域全体の活動につなげていく。
- 組織間での柔軟な予算の活用を模索し、長寿命化を活用した、ため池フェンスの更新を計画的に進めていく。

今後の展望

Step5 (~R3)

和泊町広域協定の設立

- 全21集落で構成される「和泊町広域協定」を設立
- 広域後のメリット
- ・集落間連携により、資機材、人材、技術力の融通
- ・共通単価を設定
- ・事務量の減少 などなど

Step4 (~R2)

小規模活動組織の課題から全体の課題へ

- 今まで小規模活動組織の課題が、全組織の課題となりつつある。
- 単独組織での活動が厳しくなることから町全体の広域化を検討する。
- 広域準備委員会の立ち上げ